

病院長	地域医療連携部長	看護部長	事務部長	医療連携室課長	医療連携室

2025年度 第3回地域医療支援運営委員会議事録

日時 2025年11月27日(木) 14:00~15:00

場所 藤田医科大学岡崎医療センター大会議室2 / ハイブリッド形式

司会 小田 翔亮

出席者 【院外】(Zoom)田那村 収、升川 浩子、青木 裕明、片岡 博喜
(来訪)織田 盛久、相川 美代子、松坂 禎文、加藤 政幸、加藤 武嗣、
廣田 和久(代理)、山本 秀幸

【院内】鈴木 克侍、小野 布佐子、越村 公宣

欠席者 【院内】碓氷 章彦

(敬称略)

1. 開会

- ・鈴木病院長より挨拶

インフルエンザの流行による学級閉鎖等も聞いており、注意いただきたい。巷では市中病院の6割以上が赤字経営であるが、岡崎医療センターでは去年を上回る成績である。これもひとえに皆様のおかげであり、感謝申し上げる。引き続き協力関係を深め、皆様のご指導を仰ぎながらさらに地域へ貢献できる病院にしていきたい。

- ・新委員 岡崎医療センター看護部長 小野布佐子より挨拶

10月1日に着任した。岡崎市に初めて来たこともあり、地域について分からないことが多いが地域の皆さまと連携し貢献したい。

2. 当院からの報告(資料①)

- ・資料①の通り

前方/後方連携の実績、共同利用の実績、救急医療提供の実績、地域の医療従事者に対する研修活動、当院からのお知らせを報告。(鈴木)

3. 各委員からご意見ご要望等

【愛知県医師会 理事 田那村収】

田那村先生のコメント入れてください。

【岡崎市医師会 理事 升川浩子】

岡崎医療センターが開院し5年経つが、岡崎市民病院が1施設で担っていた役割を分担いただき、岡崎市施設間の連携がより良くなっていると感じる。

年末年始の休日緊急当直は混雑が予想されることから、岡崎医療センターでも体制強化いただけるとのことで大変心強い。今後もよろしく願う。

→昨年、岡崎市医師会による休日診療が大変であったと聞いたため、少しでも岡崎医療センターで業務にあたればと考えている。(鈴木)

【岡崎歯科医師会 会長 織田盛久】

麻酔なしでの治療が難しく、全身麻酔下での治療を希望される患者もおり、協力いただけただけありがたい。

→我々もぜひ協力したい。現時点で非常勤の歯科医師はいるため、事前に患者情報がわかれば実現できると考える。できれば共同主治医として、歯科医師にも手術に参加していただきたい。抜管後の全身管理は総合診療科や内科で診る体制を構築できれば実現できると考える。今後協議を進めたい。(鈴木)

えきなんフェスタについて、参加者はどの程度いるか。

→最近人気のイベントになってきており、来場者数は約 500 名程度。ぜひ歯科医師会も参加いただければと思う。(加藤)

【岡崎薬剤師会 副会長 青木裕明】

患者向け広報誌ふじたおかざきについて、岡崎市薬剤師会会員薬局に配布いただき感謝する。自身のお～ろら薬局においては、配布いただいてから 1 週間でなくなった。いかに患者が地域の病院に関心があることを、改めて実感した。

インフルエンザについては、流行はみられず、地域の患者が数名「インフルエンザの検査キットはないか。」と尋ねてきた程度。

横浜へ行った際、たまたま港にダイヤモンドプリンス号が停泊しており、新型コロナウイルスが国内で確認された当時を思い出した。コロナウイルスが市内で蔓延し大変であった時、藤田を中心に医師会、歯科医師会、薬剤師会、その他医療従事者で 5 年間克服してきたなと感じた。

→広報誌について、部数が足りないようであれば医療連携室にご連絡いただければ追加でお届けする。コロナウイルスについて、無事収束を迎えたのも皆様のおかげである。改めて感謝申し上げる。(鈴木)

【岡崎市保健所 所長 片岡博喜】

岡崎市のインフルエンザウイルスの陽性者報告者数を報告する。11月10日から16日で42.78人、11月17日から11月23日63.56人と報告者数が増加しており、去年の増加傾向と近いがピークが早まっている。市内での学級閉鎖も発生している。日頃の感染防止対策についてお声がけいただきたい。

9月6日に実施した救急の日について、参加いただき感謝申し上げます。次年度の計画があればぜひ共有いただきたい。

→インフルエンザについて流行が早まっているとのことであったが、できれば年末年始の医療機関が閉まっている時期に流行を迎えたくないと思っている。岡崎医療センターでは、3日しか水道がもたないということもあり、現在上下水道局と対策を検討している。できるだけ早期に復旧システムを構築するよう進めている。(鈴木)

【幸田町健康福祉部 参事 相川美代子】

職場体験の受入れについて、大変ありがたい。

インフルエンザについて、昨年度年末にピークを迎えたことから、休日当直クリニックの駐車場が満車となり、公道に溢れた事態があった。今年度は岡崎市医師会から協力依頼があり、幸田町については1/1と1/4の休日当直クリニックから1km圏内の施設の駐車場を利用できるよう調整した。

→駐車場混雑に対する対応について、大変ありがたい。(鈴木)

【岡崎学区総代会 会長 加藤政幸】

岡崎小学校の6年生が岡崎医療センターで合唱を行った件について、涙を流されて聴いていた患者さんがいらっしゃったと聞き、わたくしも涙が出そうになった。というのも、今回合唱発表を行った児童は、新型コロナウイルス蔓延により入学式を終えたのちすぐに休学となった子どもであり、なんとも感慨深い。

職場体験について、多数の受入れ大変ありがたい。翔南中学校の生徒に実際に聞いてみたところ、「苦労をしたがとても良い経験ができた。」とのことであった。

えきなんフェスタについて、立ち上げから3年ほど経過するが、岡崎医療センターに参加いただいたり、警察にも参加していただいたりと、行事として確立されてきた。子どもたちも非常に楽しみにしているため、ぜひ地域としても交流を深めたい。

→ダイヤモンドプリンセス号の乗客受入れをした当時、岡崎小学校の児童から頂いた激励の寄せ書きに大変力になった。(鈴木)

【岡崎警察署 署長 加藤武嗣】

日頃より、警察業務にご協力いただきありがたい。岡崎警察署管内にて県下トップクラスの検視業務を抱えているが、岡崎医療センターの協力もあり警察車両内での対応も対応いただいた。岡崎市民病院や医師会の先生方もいらっしゃるため、連携しながら進めていきたい。警察側としては、検視を受けていただきやすい環境を作っていきたいと考えている。

特殊詐欺の注意喚起ビデオを岡崎医療センターで流していただいております、ありがたい。現在特殊詐欺が多数発生しており、これまでは高齢者が被害となるケースが多かったが、最近ではSNSを利用した詐欺も増えていることから30~50代が被害にあうようになってきた。警察を名乗って電話をかけてくる、儲かる前提の投資の持ちかけ、振込口座を聞き出すようながあれば詐欺を疑っていただき、岡崎警察署にご連絡いただくよう協力いただきたい。職場に帰って、こういった話を広めていただければ幸い。

→検視業務について、藤田医科大学病院、ばんたね病院は行っておらず、岡崎医療センターでの初めて取り組みである。数件ではあるが協力していきたい。(鈴木)

【岡崎東消防署青野出張所 所長 廣田和久】

ドクターヘリ訓練により、出動部隊の見直しを行っていただき、大変ありがたい。

岡崎市内で約90名の救命士が活動しており、岡崎医療センターにて実習の受入れをしていただいております、来年度以降も引き続きお願いしたい。

→救命士の実習について、積極的に受け入れていく。ドクターヘリの出動部隊は、我々にとって不可欠であるが、負担のないよう今後も省力化を計れたらと考える。(鈴木)

【幸田町消防本部 消防長 山本秀幸】

10月1日より検証したマイナンバーを利用した情報共有ツールについて、現場では時間がかかる、ログインに手間がかかるといった問題はありますが、運用開始以降15件の実績がある。そのうち岡崎医療センターへは8件搬送した。今後も進めていきたい。

→病院到着前に患者情報がわかることで、治療方法の検討ができ、余分な治療をせずに済む。ぜひ今後もお願いしたい。(鈴木)

4. 閉会

- ・次回以降の開催予定日は以下の通り

2025年度第4回地域医療支援運営委員会 2026年2月26日(木) 14:00~15:00

2026年3月5日

以上
文責：三好